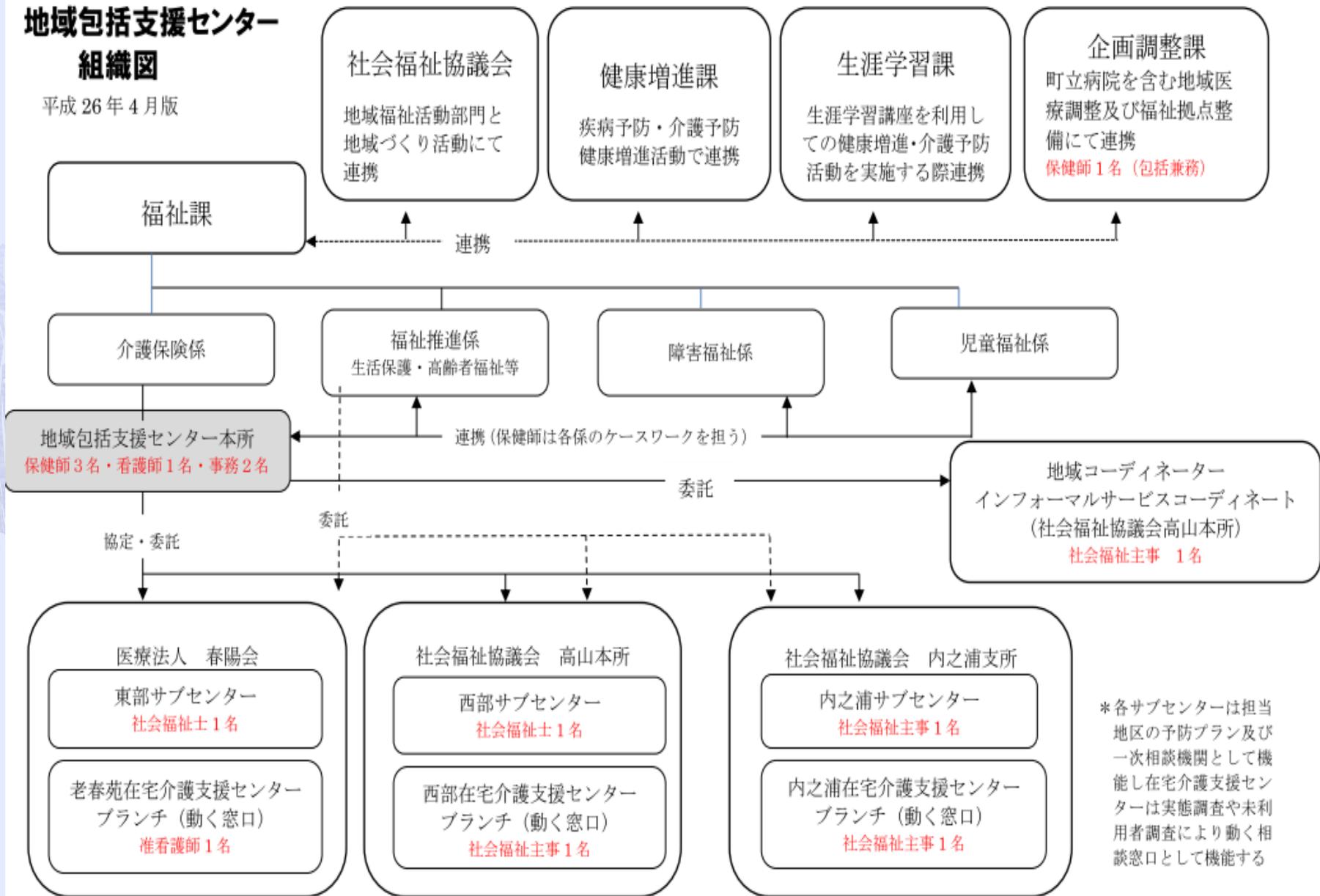


互助が自助を育てる 支えあい体制づくり活動

肝付町役場企画調整課参事兼福祉課保健師
能勢佳子

地域包括支援センター 組織図

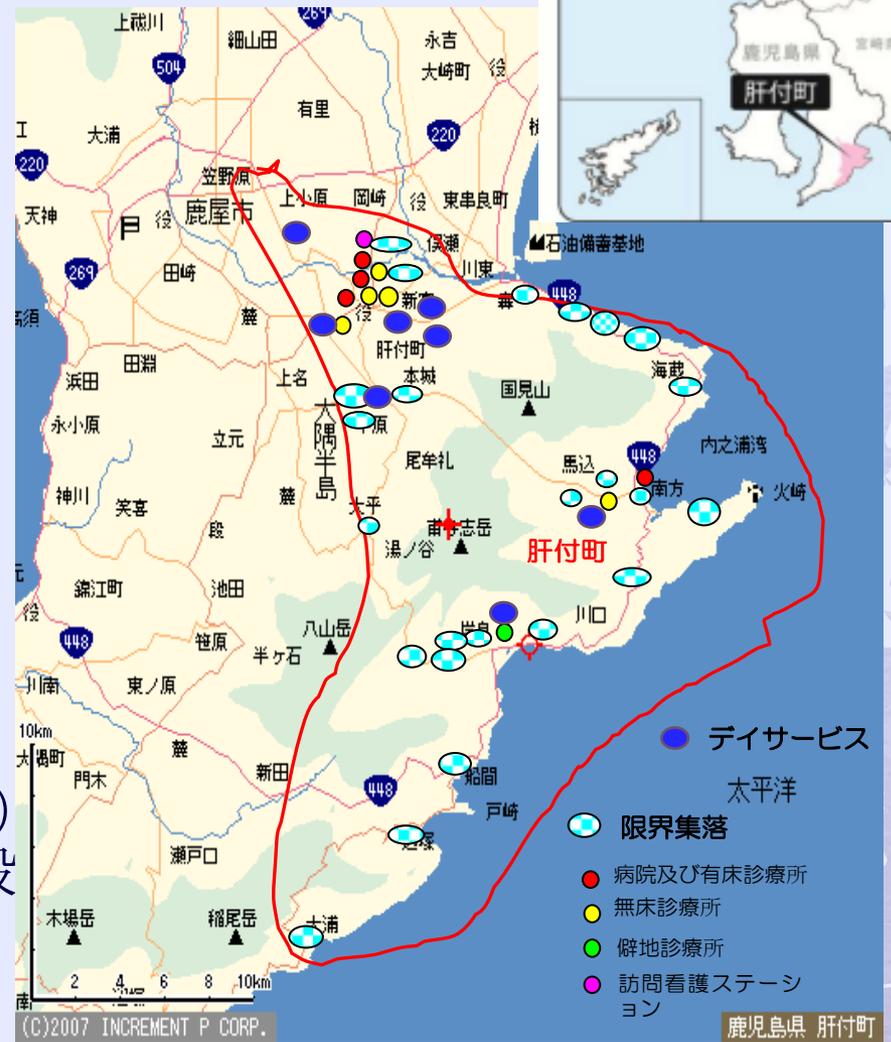
平成 26 年 4 月版



*各サブセンターは担当地区の予防プラン及び一次相談機関として機能し在宅介護支援センターは実態調査や未利用者調査により動く相談窓口として機能する

肝付町の概要～広さと点在のリスク～

- ◆ 平成17年7月高山町・内之浦町が合併し誕生
- ◆ 面積 308平方km
南北に車で120分
東西に車で90分
- ◆ 人口 16,582人
(H26.8.31現在)
- ◆ 老年人口割合 37.8%
- ◆ 限界集落 33/132集落
- ◆ 病院・有床診療所 4施設
 - ◆ 無床診療所(僻地診療所含) 6施設
- ◆ 訪問看護ステーション 1施設



集落が点在し医療機関や商店も旧町の市街地に集中

地域課題

- ◆ 地理的に孤立した高齢化率50%を超える限界集落が点在している
- ◆ 地理的に災害リスクを抱えている。リスク管理が求められる地域である
- ◆ もともと自助・互助の素地があった地域が多いものの、高齢化により数少ない壮年世代の負担が大きくなってる

取り組みの経過

- ◆ 事業推進体制確立の時期(平成19-20年度)
 - * 災害用援護者台帳の整備
 - 顔の見える関係性の重要性を地域包括支援センター等専門家が気づく
- ◆ 認知症をキーワードに住民が地域課題だけでなく地域の良さに気づく語り合いの場作り(平成21-22年度)
 - * 地域づくりと地域支えあい検討会
 - * 徘徊模擬訓練 * おたがいさマップ
 - * 災害シミュレーション研修 * 保健医療福祉従事者研修会
 - 住民・専門職が共に語り、共に学び、共に考え「つながり」の大切さを実感
- ◆ ITを使った新たな取り組みの開始及び共助組織の育成支援(平成23年度～)
 - * 高齢化率100%の集落でのテレビ電話によるネットワーク事業
 - * あいばっどによるネットワーク事業
 - * 自主サロン育成事業
 - 距離のリスクをITで乗り越える試みと、できることを少しずつ組み合わせて地域で支えあう場を自主的に運営していく土壌を醸成
 - 「誰かのために元気でいたい」自助につながる

高齢化率100%の地区から学ぶ

- ◆ 互助により生活してきた集落で高齢化が進むということ
 - * 受診や買物の乗合せがむずかしくなる
 - * 炊き出しがむずかしくなる
 - * 見守りがむずかしくなる
 - * ここに住む続けるかどうかの選択を危機のたびに突きつけられる

ITを利用したネットワークの試み

(地域包括支援センター機能強化事業)

◆ 肝付町IT化推進事業内容 (地域包括支援センター機能強化事業)

* 多機能テレビ電話を設置

地域包括支援センター及び担当地区サブセンターからの総合相談、定期見守り、要援護高齢者の介護予防の活動への活用
地域内でのお互いの見守り、また防災等の緊急対応に役立てる。

テレビ電話を使って出来ること①

◆ 通話機能によるもの

- ・地域内の交流 雨が降っても顔が見れる！
- ・地域包括支援センター及び、行政機関、医療機関とのネットワークによる住民の安心感の提供



テレビ電話を使って出来ること②

- ◆ 映像や文字による情報の伝達
 - ・ 定時の映像配信
 - 安否確認！
 - 生活リズムをつくろう！
 - 健康体操などで介護予防！
 - ・ ビデオレターを通して
 - ボランティア等交流への橋渡しができる
 - ・ 災害時等の情報伝達



これまでに得られた効果

- ◆ 地域内での日常の連絡手段として活用
- ◆ 地区振興会長による安否確認を自主的に開始
- ◆ 告知放送が日常の中に浸透
- ◆ 電話がかかかって来るのが嬉しい

地域外の方を この地域の支えあい巻き込もう!

(地域支えあい体制づくり事業)

◆ ボランティア現任研修活動事業

サロンやボランティアの方々への研修施設として
学校や営林署跡を利用

一緒に学びながら自助共助を
体感し集落にはボランティア活動
として労力や知力を提供する
肝付で「ともに生きる」を実感！
だからこそ支えあう！

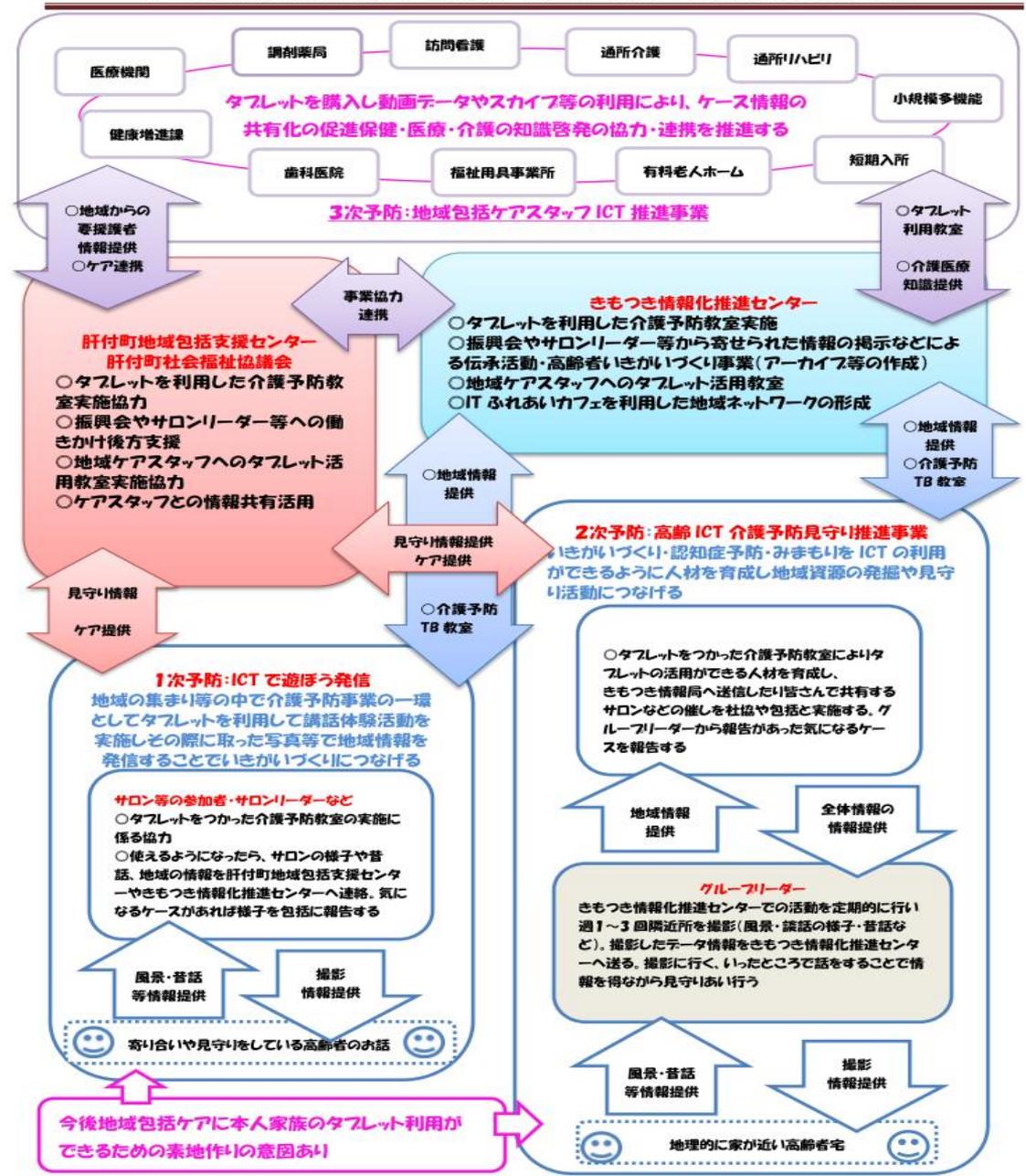


この地区活動から得られたこと

- ◆ 地域内の人々が顔と顔を合わせることができることは地域活動の活性化につながる。その距離の問題を埋めるためにはITの活用も有効！
- ◆ 地域を愛する気持ちは自分を大切にすることにつながる→セルフケアへのモチベーション
- ◆ 地域同士が交流することで自分の地域の課題と違う地域の課題を比較し、「自分たちで解決できる」と「他機関を巻き込むこと」を選択できるようになっていく
 - 地域のほうから包括への依頼、健康増進課への依頼
社協への依頼、他地域への依頼

地域包括ケア ICT事業！

こんなイメージを立てて2013年度事業を開始しました
やってみると二次予防が上手いかわなくて2014年作戦を変えて実施しています



三次予防 地域包括ケアスタッフICT事業

なれない中ですが
つながる方法を模索
しています



一次予防 地域で遊ぶ「あいぱっど」



いつもの場所が
違って見える
だから発見
だから楽しい！



二次予防：地域のみなさんが 小さな拠点になる人づくり活動



(介護予防普及啓発事業・一般講座)

肝付町のハイカラな 65 歳以上の高齢者の方のために、さらに素敵に若々しくて頂けるよう『あいばっと (タブレット)』講座を下記のとおり行います。

まったく触れたことがなくても大丈夫です！ぜひご参加ください！

- 日時：1 回目 9 月 2 日 10 時～12 時 基礎講座
2 回目 9 月 9 日 10 時～12 時 応用講座
3 回目 9 月 16 日 10 時～12 時 活用してみよう
4 回目 9 月 24 日 10 時～12 時

特別講義：町に出てみよう！Wi-Fi 体験

- 参加費：1,000 円
- 場所：きもつき情報化推進センター（西平石油となり）
- 定員：町内全域の 65 歳以上の高齢者の方・10 名（先着順）
- その他：あいばっとは用意します。もってくる必要はありません
めがねが必要な方はお忘れなく！
- 申し込み方法：地域包括支援センターまでお電話で！（氏名・住所・連絡先）

8 月 22 日までにお申し込みください。

TEL 65-8419

*10 月・11 月は場所を内之浦地区・岸良地区に移して実施予定です

今年度仕切りなおしで取り組む事業地域の憩いの場から地域の情報が発信されつながっていけたらさみしくない！



地域で支えあう居場所作りを自分たちの手で (支えあい活動の土台づくり)

- ◆ お茶のみの場がほしい！と思う方が2-3人の仲間をつくって地域コーディネーターに相談
- ◆ 作戦会議をひらいて1回目を開催
- ◆ 無理のない回数でやり方で自主的に実施
コーディネータは試行錯誤によりそう
- 情報交換(互助)によりさらにそれぞれのサロン活動(自助)が発展し、次へ発展する
 - ・サロンリーダー研修会
 - ・いっぺこっぺ大交流会

つながる・支えあう・生きる

- ◆ 地域にもそれぞれの住民の方々にも力がある
- ◆ その力を発揮できる方法はそれぞれの人・地域に眠っている
- ◆ 誰かとつながり、支えあうことで自分の力に気づく

自分の力が役立つことを実感することで
誰かのために元気でいたいと願う

専門職は、時に福祉用具のように、時にデイサービスのように寄り添う方法を一緒に考えつなげていく

地道に1つずつ急がずに・・・

地域は生きているから常に同じ状況ではないことを認めつつ支援を続けよう！